

ま え が き

徳島県中学校教育研究会数学部会の会員の先生方には日々「学ぶ楽しさを味わい、主体的に追求する生徒を育む数学教育の課題」を研究主題に教育実践を積み重ねてこられましたことに対し心から感謝と敬意を表します。

昨年度、経済協力開発機構（OECD）の57カ国・地域の15歳約40万人を対象にした「生徒の学習到達度調査」の結果が発表されました。その結果日本は「科学的応用力」「読解力」「数学的応用力」すべて順位が後退し、前回に続き高校生の学力低下傾向が示された、と大きく報道されました。特に数学教育に携わる者として気になるのは数学や科学に対する子供達の姿勢に消極的な面が見られることで、科学に関する調査でもテレビや本などで科学に触れたりする割合も参加国中最低レベルの結果であったということです。

これら、国際的な学力調査においても全国学力調査等においても数学は必須の教科として必ず調査の対象にされるのは、我々の日常生活に置いて将来に向けての科学分野の発展に寄与する点に置いて数学は欠くことができない地位を占めているからにほかなりません。私達は何よりもこのことを念頭に置いて教壇実践に臨む必要があります。

簡単に言えば、数学の力を付ける、数学好きの生徒を育てることは日本の教育そのものの大きな課題であると思っています。そのためにはまず数学の基礎基本を定着させ何よりも数学に対する興味関心を喚起する必要に迫られており、研究実践が求められているところです。

そこで、本研究委員会では「数学的活動を楽しむことのできる教材研究（実践事例）」という時宜を得た研究テーマのもと研究実践を深めてその成果をまとめました。教育実践はその教師の個性に依るところも大きく、「実践」は共有化しづらい場合も出てきますが、それぞれの研究の根本理念や考え方は十分に共有することが可能なものと思います。

本誌に発表された実践例をよく検討頂きそれぞれの先生方の中に取り込んで頂くことによって、研究が初めて共有化され意味を持つてくるものと期待しています。

本誌は各都市の研究委員の先生方の協力により、研究・編集されました。この研究誌を先生方の教壇実践に活用して頂くことで、本県中学生の数学の力の向上につながればこれ以上のことはありません。

終わりにになりましたが、本誌編集にご尽力いただきました研究委員の先生方、事務局の先生方に厚くお礼を申し上げ、御挨拶といたします。

平成20年4月

徳島県中学校教育研究会数学部会
会長 仁木 眞之

目 次

(第1学年)

- 1 正の数・負の数……………伊島中学校 笹田 晋介……………1
- 2 文字を使った式……………小松島中学校 荒井 俊輔……………5
- 3 方程式……………津田中学校 近藤千恵子……………9
- 4 比例・反比例……………城西中学校 榎並 理子 ……13
- 5 基本の作図……………上八万中学校 東條みどり ……21
- 6 立体と空間図形……………富田中学校 鎌田 明宏 ……25

(第2学年)

- 7 連立方程式……………貞光中学校 多田 千洋 ……29
- 8 連立方程式の利用……………藍住東中学校 河野 恵子 ……33
- 9 一次関数とグラフ……………神山東中学校 山口智恵子 ……37
- 10 一次関数の利用……………鴨島東中学校 谷 真紀子 ……41
- 11 平行と合同……………木頭中学校 榊原早知子 ……44
- 12 図形の性質と証明……………吉野中学校 櫻井 篤史 ……48

(第3学年)

- 13 平方根……………三島中学校 佐古 晴輝 ……53
- 14 二次方程式とその解き方……………上勝中学校 川田 哲生 ……55
- 15 身のまわりの関数 $y = ax^2$ ……………山城中学校 秋山 真人 ……59
- 16 図形と相似……………海南中学校 東甫 英佑 ……63
- 17 三平方の定理……………鳴門市第一中学校 森本 千晶 ……66